

A 俳句の可能性・俳句を味わう

名前

三年 組 番

1 次の——線部の漢字の読み方を調べ、平仮名で（ ）に書こう。

①分け隔てなく接する。（ ） ②自由な解釈。（ ） ③挨拶（ ）

2 次の語句の意味を調べよう。複数の意味がある場合は、「俳句の可能性」での用法に近いものに○印を付けよう。

語句	意味
①断念	
②感性	

3 次の語句を使って短文を作ろう。

①かきたてる	
②ひたすら	

4 教科書の本文を読んで、次の（ ）に適切な言葉を書き入れよう。

俳句は、（ ）（ ）（ ）（ ）の（ ）（ ）音の定型で表現される。また、一句の柱として、季節の言葉である（ ）（ ）を用いるという約束がある。この約束の型を（ ）といい、俳句という（ ）（ ）を支える大きな力となっている。
しかし、なかには、定型をはみ出した自由な音律の「（ ）（ ）俳句」もある。

5 次の俳句に詠まれている情景を（ ）（ ）に書き、想像しながら音読しよう。

どの子にも涼しく風の吹く日かな
飯田龍太

いくたびも雪の深さを尋ねけり
正岡子規

跳箱の突き手一瞬冬が来る
友岡子郷

たんぽぽのぽぽと絮毛のたちにけり
加藤楸邨

分け入つても分け入つても青い山
種田山頭火

B

俳句の可能性・俳句を味わう

【目標】それぞれの俳句に表現されている季節や情景、作者の思いなどを捉え、読み味わおう。

名前

三年 組 番

1

教科書70ページの俳句の季語と切れ字を書き抜き(なければ×印)、季節を書こう。

俳句・作者		季語	季節	切れ字
赤い椿 つばき 白い椿と落ちにけり	河東碧梧桐 かわひがしへきごとう			
バスを待ち大路の春をうたがはず	石田波郷 いしだ はきょう			
萬緑 ばんりよく の中や吾子 あこ の齒生え初むる	中村草田男 なかむらくさ たお			
飛び込みのもう真つ白な泡の中	神野紗希 こうの さき			
桐一葉 きりひと 日当りながら落ちにけり	高浜虚子 たかはまきよし			
金剛 こんごう の露ひとつぶや石の上	川端茅舎 かわばたぼうしや			
冬菊のまとふはおのがひかりのみ	水原秋櫻子 みずはらしゅうおうし			
日と月のごとく二輪の寒牡丹 ぼたん	鷹羽狩行 たかはしゅぎやう			

2

教科書70ページの俳句を、切れを意識して朗読し、最も気に入った俳句を一つ選んで書き写そう。

選んだ俳句

3

選んだ俳句について、読み取った作者の思いと、気に入った理由を書こう。

①作者の思い(作者の感動)

②選んだ理由